
終電後あるいは、始発前

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終電後あるいは、始発前

【Nコード】

N5156A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

夜の街はいつもと違っていて、立ち止まって見なければ分からないこともある。

無機質なコンクリートの壁に身を任せて目を閉じる。

終電はもうとつくに過ぎてしまった。

空気が冷えて沈んでいるのを肌を感じる。

間に合わないことぐらい分かっていた。それでも、駅までは、いつものように歩いてきた。

知らない街ではないけれど、一夜を過ごせるような場所を知っているわけではない。

急に、よそよそしくなっただいつものホームには誰一人いない。

僕は誰かに繋がっているようで、実は誰とも繋がっていないのかもしれない。

何かを考えるのが億劫で、閉じた目を開くことができない。

目を開けたら、何か行動しなければならぬ。

何かってなんだ…

錆びた鉄の匂いが鼻につく。

どの街でも、動く者は留まってはもらえない。

動かなくなつたものは朽ちていくだけだ。

古い物は新しい物に替わり、街は新しい物に侵食されていく。

目を開けたら、そこはもう知らない街かもしれない。

24時間開いているコンビニを探すか、インターネットもできる漫画喫茶に入るか。

駅前も、姿を変える。

チカチカと光る目障りなネオン。無言で圧力をかけてくる新しい世界。

一方で痛々しい位、真つ暗な商店街。

ぐるっと見渡せば、新しい世界と古い世界が奇妙に共存している。

静寂が二つの世界の真ん中で揺れ動く。

立ち止まらなければ見ようとしなかったかもしれない。

あるいは、見るために立ち止まったりはしない。

今日もどこかで世界の色が入れ代わり、ぴかぴかのネオンが夜を支配しているのだろう。

夜は長い。始発が来るまではもう少し時間が掛かりそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5156a/>

終電後あるいは、始発前

2011年1月9日14時17分発行